

[illegible]

工

海邊にて七日間の台合を演じに招かれ、三人藤井寛太郎氏の名を以てし、壯麗な十餘子に一場の諸節となす。川崎水利組合董事有志吉田氏等來り會す。此夜藤井組合長川崎理事等の招待により、故宇都宮藩に於て饗宴の儀と享く席に列するもの藤井川崎兩氏の驕君に於て吉田君の當意妙抄の滑稽笑柄に一悶路を解く。

翌八日、大阪毎日社の關君京田の並川君等と共に、木浦丸に搭せて群山を登す。群山日報の松波龍門亦事を以て入京すべく一行に加はり、群山居館民長飯上貞信君亦船客の一たり。

午後三時餘は霧に解いて細江の大瀧を辟きつゝ下流に進む。漫々たる大瀧の兩岸山低ふして夏草蔓々、江岸の綠樹水面に映じ山影倒るまに浮かぶ處、自帆水の如く上下して江風靜かに衣袂を吹く快音が可からず。

細江の名所竹島を左舷に見て船は大津に入る。高浪穩かにして鏡の如く關君の安心一方ならず。

進むうち先頭遊樂船に望めば一抹の濃雲西に流れて海を蔽ふ。同君よ進み無く朝霧瀟々名物漁業にして常に航路者の憂ひとする處、此處に於て一悶路を解く。

時に民長飯上君曰く、木浦丸と群山丸の二船は是れ十年一日の南洋航路に従事し、既に兼に潮流氣壓其他海上一切の變化を知得し、比類無き熟練家に於て令名あり、曾て一同も鐵船精に達し算有しこと無し、故と以て余は常に此航路に兩者の一を擇ぶと、關君重ねて安心す。

須臾にして日將幸ひに東南に浮流して行路海濤日漸に著らんとして海面疾く忽ち鮮紅血を流せる如く、水天灼眼眼爲めに眩せんぞ。

當時これに暗黒色の夜の衣は、東の空より刻一刻見ゆる一天は暗く、漁火一點燈く波間に明滅して天空湛々、海洋の暮色蒼然として身に逼るの時、人は只無邊の大に投はれて幽かなる戰慄記す可き事あれど、所謂下手の長藝

無し、即ち獨り柱頭に立てば四情動かし、適々これを見るは無念愁怨の境。茫として我を忘るること多し、怒ら海風凜冷の氣と覺えて寝堂に還れば大海の關君既に有り矣。

三更半深奇寒を發して關君頻りに呼ぶ金鑰環穿うして遂に開けし、關君急々手込んだる途に這ひ出す。此上ハ昇ぢやと其故を問へば、由來神經過敏の關君早や恨めしそ様な聲を出し「キキヤシ」云々とどうとう變聲に乘り入れた、聞き給へバ、徐行樓閣の音のぬけるを、今の態度ぢや一時間四五回、それをしても今船を遙めたいやい、ストブせども衝突が危険だ、ソラ警備だ船が危険だ、船長は老練でも若さ過ぎやあモウダメだ。

ナヲ困つた君何んだ、寢て居る段かも知れぬ關君は、遠勢に坐落はッキ物と持ち起すて居る。

お前合に一言二言何時しか夢は華淫に入つて前後不覺、再び關君の奇聲に驚かされて又凄慘かに着いたと聞へバ、此ヤ安心して給へ巴川に滑るに云へバ、此ヤ安心して寝ても居られず起き上げれば君が實に吾輩の男だと不平やら表しやいらねえのだ」と云ふ關君の眼が赤い、やうしたと聞けば昨夜はウツク度なかつたとは御苦勞な。

イザ上陸と身仕度して不斗ボクサクトに手を當つればオチ紙入れがない、群山ハテナを考へ一考すれば、群山ハ若輩旅館の床の間に置いたのは事實明白、忘れ物の持病に染はないから、ソレ見給へん君があんなろ素直に澄すたらうな事だが、我輩など注意小心會つて斯く息を食はずと、自分の事の様に關君がクヤンがある、友情の一端とげに破し。

七時半川上陸忘れ物の注意は早速一電を發し置き、九時半倉庫に歸着し

●東京の人、大阪の人、日本の人、群人の人、皆同じ五体を有する動物なり、主義の相違なし。

▲勤めざるを品位高潔の美とは誰か語り、人の面影を飾らぬ、即ちう

集出役所長、藤本合資會社の澤村君平田又水君、山田枝良君他有志諸君の好意を附し併せて其旅費を斯る。

剛益水利組合の成功を祝して曉り初むる青田十里や水の音

●物々し草(二) 星廻家

▲地獄の道は三方にあり、中の道を行けば罪を踏む、道を踏んでも和気にならぬ、何たる事か吾知らず、知らざらぬは魔除けの道とて四方にある乎。唯。

▲此頃の新聞はヤケ出したりと云ふ甚だかり者あり、而かも大道で、向々其の異なり、物々しき云々草と思ひ、其の人に其の人の主義なる者ありのべし。

▲宴會、公會等の場合會員全部は女々しきリボンを胸に飾る事流行し來れる存利物の夥多なるに連れて、世の中の事項、隨つて多くなる所以なり。簡單なる道德の修養法はなきものにや。

▲一種の金儲けを妨害されるがために、金の金儲けをリボンの胸飾りは此項學校の女兒の胸にも用ふるされたり。

▲妻父母は家事要領の型五位に考ふれば、是世の中は勿氣の沙汰。

▲貧民の下被娘、よく昔、阪上、應が羽根に下だし降、酒田の奥音と云ふ真層へ立ら寄つたるとき目に知れずとあり。見たる人なき故異かに知れずとあり。

▲龍山某味暗屋の女將、看板となれ出現に行きたる所、強ならぬ事なまもツケられ、引込に引つ込むに宜ならん歎。

▲人を見て人と思はぬ人は、人に見れて人に男らざる人乎。

▲必ず其の初め其の終と相見んと欲せず、其の初め其の終と相見んと欲せず、若たる着物を用ゆべしと有美子云ふひ也。

大坂

の

雑誌の体と備へ諸君を調査し資料を蒐集するに便せむと云ふは、其の意を察す可き事なり。然るに其の編輯者、田中正義氏の「臺灣研究」の記及び調查報告並花巻盛興會館の刊行物に於て、人々と得る人を得たるの文字なく此外（人氣を得る人を得る）人は三宅孝雪博士の國民訓社に就いて（東京電燈株式の電燈誌下り發表）を期し前誌を加へた勝利と呼ぶと同時に所被に一擊と主張したるもの痛快といふべし。東京市芝區愛宕町三丁目實業之友社に於ける實業上の記事而言によつて全誌を完らせるも其有益なるや言ふ迄もなし。京城大和町御成廣協合會。

▲東洋時報 第五百十三號 久保要藏氏の「南洋觀見」 門田正義氏の「臺灣研究」の記及び調查報告並花巻盛興會館の刊行物に於て、人々と得る人を得たるの文字なく此外（人氣を得る人を得る）人は三宅孝雪博士の國民訓社に就いて（東京電燈株式の電燈誌下り發表）を期し前誌を加へた勝利と呼ぶと同時に所被に一擊と主張したるもの痛快といふべし。東京市芝區愛宕町三丁目實業之友社に於ける實業上の記事而言によつて全誌を完らせるも其有益なるや言ふ迄もなし。京城大和町御成廣協合會。

▲實業之世界 第一日一號 林健氏の「米國今や支那に政治的經濟上の地位を永久に確立す」以十頁に亘る論文文藝界の文字なく此外（人氣を得る人を得る）人は三宅孝雪博士の國民訓社に就いて（東京電燈株式の電燈誌下り發表）を期し前誌を加へた勝利と呼ぶと同時に所被に一擊と主張したるもの痛快といふべし。東京市芝區愛宕町三丁目實業之友社に於ける實業上の記事而言によつて全誌を完らせるも其有益なるや言ふ迄もなし。京城大和町御成廣協合會。

▲滿洲之實業 第六十七號 滿洲朝鮮半島之實業上の記事而言によつて全誌を完らせるも其有益なるや言ふ迄もなし。京城大和町御成廣協合會。

召使れ初 黒法師

第九十三回

「おと澤野は眠み付けて」「うなだれたねなるでない、控へき、主に頼むされど是は控へざるべき、主に頼む人の大難、意地悪きた年寄一言に悔ひをなして、口を禁じ時なるまじと思ひたれば、假らんと頭を掻ける」「怖れながら然れども返して承させます只今御礼間、旦那様御存じあらせらるのみ事ごとくします、其事此方より申上げざるを、た採用ひあらせられませぬでござりまする」と

云ふ中に一尺あまりも膝を前めぬ、彼女目の血走り、彼女の唇は濡ひ、彼女の顔に清く紅き心は濕ひ、澤野の口上向當を得ぬことゝあらば、此場去らず踵りかき朝し殺して、御當大興の上と構ふ黒き雲を拂はんとは彼女先刻よりの覺悟なり、「まだいふのか」「まだいふか」澤野は怖ろしく鋭く聲を、真向より浴せかけて「まだいふのか」

生

の中に威嚇の心、口の端は叱るやうに「御下様へ對して不禮口上、殊に御前様御前、控へてあるぢや、ヒつとして控へてあるぢや」

「旦那様々々」どれ程は悲しげに「そりや什麼と仰せ遊ばすでござります」

旦那様に愚りはなきて、察の身に覺わのある御不審、是處で有様を申上げるが、何故惡いでござります、今日の御登義、白いを白い、黒いを黒いと、御仕分けあらせられるではなくて、白と黒、黒と白と……」

「いゝまだ云やるか、まだ」云やるかと、左道は片手に煙の煙を叩き「天眞様御照らせ、神々様御照覽可憐口上腹胃かせすと、身の明りはやがて立つ、髪へ虎皮で立たすと、何時か一度は立つ時あらう、急ぐ處でない、御前下や、御前とあるに謀

せぬ、なれど、私名に宛てたるが不義とあれば、一言辯解ござりませぬ、御法次第御仕置あらせられませ」

廣 告

孟蘭盆會
去年の通り 本月十三日より十五日まで執行
京 城 各宗聯合寺院
佛 教 新種大販賣
○新入説明附美本一冊○
○營業案内○
○無代進呈○
東京内務省新宿區本郷三丁目
日本種苗株式會社

○貸金 月利四厘 二、一五割 高利貸
有給者に在りて權利密に低利融資可申渡



「何時までも申し上げます、療の白
れ探り上げあらせられぬ上、何時ま
も同じ事繰り返へし申し上げるでござ
ります」
涙としたる聲、宛ら岩の中心より響
き出づる如く聞はれ
「これのね、御前、いかに作法を心得ぬ下
女、これは云へ御前、裸れ妻が目には付か
らぬ、直ぐたれ阿下されたを難有いども
は、す、つけ、と云ひたいまをい
は正しく上を恐れぬ仕方、た道どの
様、この様を見ても思ひやらの、
縁々とななめ参らるゝ場所でない、
退れ、退れいの」
「いね、退りませぬ、假へ深野様仰せ
ざりまして、且、那樣た身の明り立
つらぬは退りませぬ」
これ、これ、た道は、見返へりて、目
んで在らぬかの」
た道は血を吐く思ひなりき、血を吐
けりともまだ苦しく、四十二の骨々を
挫きよらるゝ思ひなりき、た療はその
心の中察しやうて、はらりと落つる
涙の中に、詞もなき平伏しぬ、深野は
さもあらんと云はればかりに、今がて
目をた道に轉じて
「これ道どの、先刻の返答、什麼ど
ござりますな、あなたれ心にた覺は
あらせずども、あなたれ名を宛にした
る文、た療解ござりますか、あら
ば此にて御道慮なく仰せござりませ
御前様も御聞かせござります、御同役
衆皆た聞かせござります」
た道は深野をきつと見上げたるが
神々様御無算私身に覺はござりま

富 藤富國商店牛乳部
 電話 三七一〇番
 龍山漢江通二丁目
 富 藤富國牛乳部出張所
 電話 二〇二番
 藤富國太人
 肥塚重太郎
 松原井平太
 堀井重太郎
 四井重太郎
 二井重太郎
 一井重太郎
 五井重太郎
 一五二三四十
 配集消毒專顧店
 女配集消毒專顧店
 電達金毒機問
 話工達金毒機問
 係夫係係手醫主
 京龍牛乳一手販賣所の開店

檢査
 消毒牛乳

①構造設備の完成 器具の整備、就中牛乳消毒器は最優
 等なるフラー式壘装器なり
 ②此消毒器の長所は牛乳の香味、色澤、滋養成分、消化、
 性を少しも變損せずして完全に消毒するにあり
 ③願ひ並に専門獸醫あつて牛乳は毎回嚴密なる理化學
 的檢査を施すは極めて純良安全なり
 ④専門者監督指揮の下に消毒係、取扱係、配達係、女工
 等あつて各分業的に働き秩序立ち注意甚だ周到なり
 ⑤營業法の正當、勉強、丁寧なるは本部の特色となり
 ⑥論より證據實際に構造、設備、牛乳操作法の如何は是
 非御一覽の上御高評奉願上候

京城 永樂町二丁目

京龍牛乳一手販賣所

各位益々御清穆御盛榮の段奉慶賀候
陳は吾々共の營業に對し今日迄多大なる御
懇情の下に御引立と蒙り千萬奉拜謝候然
るに今回時代の新要求に應じ事業の根本的
改善を施ん爲め一同協合の上京龍牛乳一
手販賣所開設す事と相成り來て七月五日
以前後右販賣所より直接御配布申上候に付
に奉願候其事情御賢察の上倍舊の御愛顧偏
所より直接御披露可申候右不取敢紙上に
御挨拶旁々御願迄如此候 勿々散白
追白 從來各牧場に於て發行せる牛乳券は一手販賣所
に於て引受配達仕候間御用命被成下度候也

細川 岡野 韓國畜產會社牛乳部
東亞 牧場 牧場 牧場
松尾 牧場
荒井 牧場
水生 田新乳
京龍牛乳界の大革新

電話九九三
發電器(夕)

-16-